

開催日時：令和3年8月5日（木曜日） 15時00分から17時00分

開催方法：インターネット会議

出席者：牛山久仁彦【部会長】、ジギャン・クマル・タパ、関ふ佐子、種子島幸、富田幸宏、富山英輔、西川りゅうじん、野村正人、萩裕美子、麦倉泰子、佐野淳〔計11名〕

次回開催予定日：未定

問合せ先：政策局自治振興部地域政策課地方創生グループ

電話 (045) 210-3275 (直通)

ファクシミリ (045) 210-8837

1 開会

- 神谷地域政策課副課長： 定刻になりましたので、ただいまから、「神奈川県地方創生推進会議 総合戦略推進評価部会 基本目標2・4」を開催させていただきます。本日はお忙しい中、WEB会議にご出席いただきましてありがとうございます。本日、司会進行を務めます、地域政策課副課長の神谷と申します。はじめに、本日のWEB会議を円滑に進めるため、会議全体を通じて、通常時は音声をミュート（消音）にしていただき、ご発言されるときだけ、ミュートを解除してください。ミュートの設定は、皆様のパソコン画面左下に、マイクのボタンがありますのでそれをクリックしてください。もう一度ボタンをクリックするとミュートを解除できます。ミュートにされないで、周囲の音やご自身のキーボードのタイピングの音などもマイクが拾ってしまう可能性がありますので、ご配慮いただきますようお願いいたします。

(神谷地域政策課副課長から事前配付資料を確認)

- 神谷地域政策課副課長： 続いて、自治振興部長の高安から、一言あいさつ申し上げます。
- 高安自治振興部長： 自治振興部長の高安です。委員の皆様には、ご多忙の中、リモート会議にご出席賜り、厚くお礼申し上げます。県では、2015年度に第1期の総合戦略を策定し、総合戦略に示した施策の進捗状況について、毎年度評価を行い、施策の成果や課題を分析して、必要な改善や見直しを行ってきました。今年度は、第2期総合戦略の計画初年度である2020年度の県の地方創生の取組結果について、評価をいただく予定でしたが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、本県では「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県の基本方針」を策定し、2020年2月から「全部局・任命権者が新型コロナウイルス感染症対策本部体制の下、急を要しない業務の中止や見直しを行い、医療崩壊を防ぐための取組みや県民の経済・雇用対策に注力する」こととし、全庁を挙げて新型コロナウイルス感染症への対応を図ってきました。こうした非常事態に「全庁コロナシフト」体制で対応するため、県の全部局において、事業の中止・規模縮小等を行うなど、十分な事業実施ができなかったことから、2020年度の報告書については、例年並みの評価を実施することは困難であり、県の事業部局による一次評価の省略などの事務の見直しを行うこととしました。その結果、今回は2020年度の取組結果について「結果報告書（素案）」という形で取りまとめさせていただいた次第です。しかし、コロナ禍においても、これまで築いてきた地方創生の歩みを止めてはならないと考えておまして、推進会議の委員の皆様をはじめ、民間の方々や市町村とも連携しながら、共に神奈川の地方創生の実現に向け前進していきたいと考えております。本日は、総合戦略の4つある基本目標のうち、基本目標2「国内外から神奈川への新しいひとの流れをつくる」と基本目標4「活力と魅力あふれるまちづくり・誰もが活躍できる地域社会づくりを進める」について、コロナ禍における県の取組みや、WITHコロナでの県の今後の取組みに向けた忌憚のないご意見を頂戴したい

と考えておりますので、活発な議論をお願いいたします。

- **神谷地域政策課副課長：** 続いて、本県の新型コロナウイルスの状況について、（阿南県医療危機対策統括官の代理として、）医療危機対策本部室長の篠原から説明させていただきます。

（篠原医療危機対策本部室長から「参考資料1」について説明）

- **神谷地域政策課副課長：** 医療危機対策本部室長は業務の都合により、ここで退出させていただきます。つづいて、地域政策課長の高木から、「コロナ対応への県の考え方」及び令和3年度から令和4年度の神奈川県地方創生推進会議の進め方について説明させていただきます。

- **高木地域政策課長：** 地域政策課長の高木です。よろしくをお願いいたします。私からコロナ対応への県の考え方についてご説明させていただきます。

現在、県庁一丸となって取り組んでおります。そうした中で、様々な行政計画については、法定計画など改定時期が決まっているものなどを除き、計画改定などは延期をさせていただくという形で進めております。その上で、計画に明記した施策・事業に着実に取り組むとともに、時代を変革する施策・事業についても積極的に展開していくという考え方に立って取組みを進めております。

続きまして、推進会議の進め方について「資料1」をご覧ください。本日は改選後初めての会議でございますが、去る6月下旬に推進会議の座長・副座長の選任及び、総合戦略推進評価部会の設置とその構成メンバーについて、事務局案をお送りし、ご意見をいただきました。その結果を「資料1」に記載しています。今後2年間、この体制で進めさせていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。この4月の委員改選により、継続された委員も多くいらっしゃいますが、改選により新たに就任いただいた委員のうち、本日ご出席いただいている委員をご紹介します。

（高木地域政策課長から新任委員のうち出席委員を紹介）

3ページ目は、2015年度からの第1期総合戦略策定時に、地方創生推進会議で部会の設置について取り決めさせていただいたものです。「2 検証体制等」の2つ目の「○」に記載のとおり、「部会」を設置し集中的に議論した上で、全体会議でオーソライズいたします。私からは以上でございます。

- **神谷地域政策課副課長：** それでは、これより牛山部会長に議事進行をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

2 議事

議題（1）「第2期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取組結果について

ア 基本目標2

- **牛山部会長：** 本日はお忙しいところご出席いただきありがとうございます。早速ですが、議事に入りたいと思います。基本目標ごとに議論を進めますので、はじめに、「資料2」「資料3」の基本目標2について、事務局からご説明をお願いします。

（高木地域政策課長から「資料2」「資料3」の基本目標2部分の概要及び「参考資料2」の概要を説明）

- **牛山部会長：** ご説明ありがとうございました。それでは議論に入りたいと思います。多くの委員のみなさまからご意見を頂戴したいと思いますので、「資料2」「資料3」の2つの資料内容についてご発言

のある方は、画面下に「リアクション」というボタンがありまして、そこに手を上げるという機能がありますのでそこで手を上げていただければと思います。分からなければ、もちろん画面に向かって手を振っていただいても結構です。

それではどなたからでも結構ですのでご発言いただきたいのですが、会議の時間が限られていますので、大変恐縮ですが、お一人おまとめいただき、1回3分程度のご発言でお願いしたいと思います。事務局でタイムキーパーをしていただいておりますので、だいたい30秒前になりましたら、そろそろまとめてくださいというチャットが行くと思いますので、よろしくお願いたします。それでは早速、西川委員が手を上げていただいておりますので、よろしくお願いたします。

- **西川委員：** すばらしい報告をいただきましてありがとうございます。報告をいただきまして、プラスとマイナスの話をしたと思うのですが、細かいことよりもやはり、プラスの面をもっとクローズアップしていった方がよいのではないかと、思います。と言いますのは、コロナで非常に厳しい状況がありますので、いろいろな頑張っていることをもっともっとアピールを県として行っていったらどうかと思います。

ここに記載されていない、県がバックアップしていないことでも、例えば全国ネットのニュースになったことで言いますと、先ほどのご報告とも関係しますが、東京新聞でも東京の都心23区からの移住者が一番多いのが藤沢市でした。それから鎌倉、湯河原町の富田町長も本日も出席されていますが、西湘地域等が大人気でして、東京新聞の記事を受けて、私もお手伝いをさせていただきましたが、毎日新聞のサンデー毎日でも、全国ネットで特集が組まれました。あるいは数日前にも全国ネットのテレビニュースでも報じられましたが、小田原市で地元出身の富野由悠季監督に応援していただきまして、地下街の階段などに機動戦士ガンダムのガンダムアートが設置されたり、マンホールが設置されたりなど、全国ネットのニュースになるような神奈川県の良い話題があります。やはりそういったことをどんどん発信していくことが大事であろうかと思っております。

そして、マイナスを極小にするために、ワクチンの接種先進国である、イスラエル、アメリカ、イギリス等の先進国の経済・社会動向をしっかりとウォッチするということが大事ではなからうかと思っております。

これは医学的・疫学的な様々な考察については、神奈川県庁でも行っておられると思うのですが、例えば、昨日、ニューヨークのモーターショウが、2週間後の開催を直前にして昨年に続き中止が決まりました。そういった状況や、ハワイは今アメリカ本土からの観光客でいっぱい、コロナ前の記録を塗り替えるほどの観光客が来ているのですが、一気にまた感染者が増えています。それによって今どうしようか、という状況になっています。そういうワクチン接種先進国の経済・社会動向をウォッチし、それを生かしていく、ということが今後のために必要ではないかと思っております。

- **牛山部会長：** 貴重なご意見ありがとうございました。もうお二人ほどご意見を伺ってから事務局にコメントをお願いしたいと思います。他にはいかがでしょうか。

- **種子島委員：** 詳細なご説明ありがとうございました。事前に資料も拝見しましたが、基本目標2の全体のKPIを中心に拝見すると、コロナの影響を受けていない事業はほとんどないような状態で、人を集めるというようなことはほとんどできなかったという状況で、県の皆様、各部署で非常にご努力されてオンラインを活用して代替イベントにしたり、SNSを使っての事業を模索されて実行されているのは非常によく分かるのですが、オンラインを活用して、かなり成功を収めているものもありますが、それはよかったです終わりではなくて、オンラインだからリアルでは来なかったような方もオンラインで参加したからこの数字になっているという部分もあると思うので、オンラインで開催する場合にはさらに目標を上げて上を狙っていてもよいのではないかと、ということが1つあります。

あと、コロナ対策ということで、SNSでの発信やウェブを充実させて、そのPV数を評価しているものがいくつかあり、基本目標4にもあると思うのですが、PV数や閲覧数がだいたい軒並み目標値を下回っています。これだけネットの世界が広がると、どんなに魅力的なコンテンツもSNS上やインターネ

ット上に置いておくだけでは誰も見てくれない、なかなかそこに誘導することはできないというところはだんだん分かってきたところだと思うので、コンテンツの充実ももちろんですが、なぜそこに目標が達成できなかったのか、PV数が上がらなかったのかということも、SNSをリツイートしたり、シェアしたりした人の反応がどうだったのか、という反応の分析・評価というようなことも、今いろいろなデジタルツールでできるようになっていると思うので、数だけの評価ではなく、その先どのように広がったのかというところまで見て行くと、コロナでの非常に難しい対応を迫られた中での結果を有効に生かして次につなげられるのではないかと思います。

- **高木地域政策課長：** ご意見ありがとうございました。西川議員からプラスの面をしっかりPRしていくという必要性、マイナスを減らすための様々な、特に、ワクチン先進国といわれているところの経済、社会動向をしっかりウォッチしていくというところで、おっしゃるとおりだと存じます。できる限り県といたしまして、今後ワクチン接種が増えて行く中で、社会経済をどのように立ち直りさせられるのかというのは国を含めて色々動きが出てくると思いますので、それにつきましては、しっかりと注視しながら対応策を考えてまいりたいと考えてございます。どうもありがとうございます。

次に種子島委員からオンラインなどで実施したものの数値の目標をもう少し上を狙うということと、もう一つはPV閲覧数、こちらにつきましてコンテンツを充実するだけではなく、どのようにして見てもらえるようにするのか、反応を確認するのかといったお話をいただきました。おっしゃる通りでございます、数値目標を今までよりも上を狙うべきというところにつきましては、オンラインという特性がございますので、どのような形で目標値を作るかにつきまして、県の方での今後の課題となろうかと思いますが、PV閲覧数の関係につきましては、おっしゃるとおりでございます、一方でどのように形で閲覧してもらえたか、ターゲットに対してどう情報を届けるかと言うところもあろうかと思えます。例えば、ウェブサイト上に記載するだけではなく、ネット広告をするなど様々なやり方があるかと思えます。仮にネット広告をするとして、どのように広告をするターゲットを絞っていくのかといったところを工夫していく必要があると考えておまして、一例といたしましては、移住定住の促進という観点で地域政策課にて行っているところでは、テレワーク関係と言った方々にどう伝えて行くのかを研究しているところでありまして、他の部局でもこのような検討はなされているかと思えますが、その結果が出るような形で引き続き各局にもお話を伝えさせていただきます、効率的、効果的に行えるようにしていきたいと思っております。ご意見どうもありがとうございました。私からは以上でございます。

- **牛山部会長：** 続いてご意見のある方はお願いします。

- **佐野委員：** 今回から新しく公募委員ということで参加させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。私は昨年12月まで総合商社に40年ほど勤めておまして、今退職しています。10年ぐらい国内で宮城県や福島県などに駐在という形で勤務しておりました。いろいろと地方創生や復興支援などの仕事をしてきたので、地元の神奈川のためにぜひお役に立てればと思い参加しました。今回いただいているいろいろな提案なのですが、やはり昨年1年で、コロナで生活様式が、ガラッと世の中が変わっているのです、従来の目標やKPIにあまりこだわらずに、新しい生活様式に対応したような、例えば基本目標2の関係人口、交流人口など、いろいろな施策を柔軟に変更できればよいのかなと思います。

具体的には、当分は日本へ外国人は来ないでしょうし、やはり神奈川県は観光資源やマーケットも同じ県内にあるので、いわゆるマイクロツーリズムなど、県内のいろいろな今まで行かなかったところに県民を誘致するような施策や、それから社会の働き方が変わるところで、ワーケーションやグランピングということでワーク・ライフ・バランスを変えようとしているところがあり、そういった対象の目的地に対して、手厚く誘導するようなPRを、メリハリを付けて行っていけるとよいのではないかと思います。県民割もそのうちコロナが収まると（案内が）出てくると思いますので、なるべくメリハリをつけて被害を受けた観光施設を補助するという意味では土日よりも平日を重視し、混雑時ではないところに人を誘導

するといったような、神奈川ならではの策がもっとできればよいのかなと思います。

それから外国人はしばらく日本へ来ないですが、数年経つと必ず来ると思いますので、外国人向けのリッチ・コンテンツなどが報告書に記載されていますが、どのような国の人々が神奈川や首都圏辺りを対象に来られるのかということについて、想定目標として、欧米人なのか、アジアのリッチな方なのか、アラブのお金持ちなのか、そういったところをある程度ターゲット化して、そのような人達向けのコンテンツを考えるというようなことがあるとよいと思いますし、コロナによりリモートでコミュニケーションを取ることに疎外感がなくなってきたので、ぜひ県のいろいろな方々が海外のシドニーやロサンゼルスなどの観光施設や文化施設の方々とコミュニケーションをして、どういったことを行っていけば、県の観光・文化施設の運営など、コロナを逆手に取ったような（取組みができるのか）、いろいろな形のこともトライ＆エラーして行って、他県にないような取組みをしていただければと思います。

- **麦倉委員：** よろしくお願ひします。関東学院大学で障害者福祉を教えております。その観点から「資料3」28ページの農福連携について、地方創生に非常に効果的であったという結果が出ておりました、非常に素晴らしいと思いました。障がいのある方の就労ということで、効果が出たのであれば、是非、今後も続けていっていただきたいと思ひます。「KPIの達成／未達成の要因分析」というところを見ておると、KPI②というところで、研修講座については、モデル3地域ともに公募を行った結果、応募が殺到したと記載があり、募集の定員を超えてしまつて参加できなかった方がいたのだらうと推測するわけですが、非常にニーズが大きいということであれば、もう少し定員枠を広げるなどして、こうした事業を拡大する方向に、より広げるという形で検討してはどうかと思ひました。

同じく、KPI①、③については、藤沢市で独自に市の補助が創設されたということなのだと思いますが、その結果マッチング件数が上がったということで、これもよい結果だと思いますので、ぜひ市町村と連携していただいて、補助金を出すなどにより、より障害がある方の働く場が非常に限られておるとし、工賃もあまりよくないので、ぜひ向上につながるような働きかけを積極的に行っていただきたいと思ひます。そう考えると、「今後の課題」というところで、「令和5年度からの自走化を見据えた、モデル3地域での推進体制の構築」と記載があるのですが、モデルの地域に限らず、もっと（対象を）広げていくと（いうことが必要だと思います）。令和5年度から本当に自走というか、補助なしにやっけていけるのだらうか、という点について、まだ少々時間がかかるのではないかとと思ひますので、ここは少し柔軟に取組みを継続的に行っていく方がよいのではないかとと思ひました。

- **野村委員：** 今回より参加させていただきます、京浜急行バスの野村でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。やはり皆様が仰っているように、今回のコロナの件で、ニューノーマルという言葉が浸透しまして、私どもの事業についても、ひとの流れが制限・縮小ということで非常に大きな影響を受けているという状況です。そうした中で、地方創生に向けてどのようなことが、というところで、交通事業者という立場から申しますと、やはり外出意欲がどのように回復していただけるようなサービスがどのように提供できるのかな、というところが一つのポイントかなと認識しております。私ども営業の基盤が、横須賀・三浦・葉山、このあたりが中心というところで、電車のないところはバスで、というような形になっているのですが、交通関係で言いますとMa a Sなど、いろいろな乗り物を組み合わせて、検索から予約、決済まで、こういうようなものが一体化できるというものが、非常に今後のひとの流れ、外出等の意欲をさらに伸ばしていくような方策と思ひます。Ma a Sは、今は交通事業だけではございますが、医療施設や観光施設など、この辺りとの組合せというものも諸外国では一部できています。いろいろな異業種の方などのご意見を伺いながら、組み合わせの中で、神奈川の中で、皆様が仰っているとおり、どのような移動をしていくのか、というところで、まさに基本目標2にあるように、神奈川にどのような人を引っ張って来られるのかということを検討できればよいのではないかとと思ひます。若干抽象的ではございますが以上です。

- **牛山部会長：** たいへん貴重なご意見をいただきましたが、事務局、いかがでしょうか。
- **高木地域政策課長：** ご意見ありがとうございました。佐野委員から関係・交流人口の増に向けての新しい生活様式に応じた柔軟な対応を図っていき、他県にはない取組み、具体的にはマイクロ・ツーリズムであったり、あるいは、ワーケーション、グランピングなどをはじめ、外国人向けコンテンツなど、多岐にわたりましたお話をいただきましてありがとうございます。コロナ禍で言いますとマイクロツーリズムという部分につきまして、先ほどお話をさせていただきましたが、かながわ県民割というものがあり、実施しておりましたが、この制度が今後復活すると一番最初の第一歩のところになるかと存じます。また、ワーケーションの関係につきましては、報告書の39ページに県西地域活性化プロジェクトというものがございます。報告書40ページにあります今後の取組みに記載させていただきましたが、県西地域が2市8町、神奈川県西側に位置しているわけでありまして、この2市8町と連携して広域ワーケーションを実施していこうかと検討しており、その第一歩を踏み出したいと考えてございます。そのような形で、できるところから一歩ずつではありますが、進めさせていただきたいと考えてございます。ご意見どうもありがとうございました。

次に野村委員より三浦半島でのMa a Sに関する取組みであったり、様々な組み合わせによりひとの流れをつくるといったところでお話をいただきました。これに関しましては、報告書41ページに三浦半島魅力最大化プロジェクトの推進という記載がございますが、これに関しましては、事業自体をどのように進めて行くのかというところがありますが、民間事業者の皆様方、市町の皆様方と連携しながら、Ma a Sといったことも視野に入れながら進めてまいりたいと考えてございます。その際にはよろしく願いいたします。

次に麦倉委員より極めてご丁寧にご意見を賜りました。「資料3」の28ページの農福連携かながわモデルに関しましてご意見をいただきました。いただいたご意見につきましては、実際に実施している部局に伝えまして、来年度以降も事業が実施できるよう、進めていけるように伝えさせていただいております。ご意見ありがとうございました。私からは以上でございます。

- **牛山部会長：** ありがとうございます。ただ今ご意見をいろいろいただきましたが、もう一つ基本目標4がございます。そちらも議論していかなければなりませんので、まだご意見あるかもしれませんが、もしどうしても基本目標2についてもご意見があれば、後ほど加えていただいても結構ですので、基本目標4について、事務局から説明をお願いいたします。

イ 基本目標4

(高木地域政策課長から「資料2」「資料3」の基本目標4部分について概要を説明)

- **牛山部会長：** ご説明ありがとうございました。それでは基本目標4について議論に入りたいと思います。先ほどと同様にお一人3分以内でお願いいたします。では関委員、お願いいたします。
- **関委員：** 発言のタイミングが遅くなり申し訳ないのですが、報告書の記載の仕方についてそもそも論を述べさせていただきます。「神奈川県地方創生推進会議 総合戦略推進評価部会」が何をやる場なのかという点にも関わります。

佐野委員のご発言とも関係しますが、現在のコロナ禍では、県民含めて、従来立てた目標にそって県の政策が実施されることを期待している人はいないのではないかと思います。従来の目標にあまりこだわらず、県の政策の実施状況を評価する報告書の方が、出す意義もあるのではないのでしょうか。具体的には、例えば、KPIの推進状況の欄は思い切って削除するとか、削除しないとしても、記載の意味があまりないところは斜線を引くなどして、その他のコロナ禍における県の取組みの状況や今後の方向性を重点的に

記載する形としてはいかがでしょうか。例えば、基本目標2の46ページ「移住・定住の促進」では、コロナにより県や市町村の相談を経由して移住した人数が、目標を超えた200%の進捗となっています。この数字は評価できるものですが、従来と比較して進捗があると評価できるというよりも、コロナ禍だから増えたわけです。このように、KPIの数字を出しても、あまり意味はないかと思います。それよりは、しっかりと、相談を行ったことで移住が促進したということに記載し、さらに、相談にあたってどのような工夫を行ったか、どのような点が困難であったかを記載し、それを検証して評価した方がよいのではないのでしょうか。

また、現在記載していないことを書くのは県の職員の方々のご負担を増やすこととなりますので、ご無理のない範囲で結構ですが、次のような内容を冒頭に記載してはいかがでしょうか。県は総力をあげてコロナ対策を行っているということですが、具体的に、どのように県の職員がコロナ対策に駆り出されているのか、といった数字をあげてはいかがでしょうか。これにより、一般的な施策の実施が困難となっている現状が説明可能でし、今の県の状況を示すことができるのではないかと思います。また、全国と比べて、コロナ対策において神奈川県が優れている点、マイナスな点を浮かびあがらせるような記載をしてはどうでしょうか。さらに、コロナ対策として行ったことについて、目標にあがっていないことで記載すべきことは何かを、まずは考えてから2020年度について評価するという形が、この非常時の評価としてはよいのではないかと思います。

- **西川委員：** 3つございまして、1つは今、関委員からもお話がありましたこと、また種子島委員からも先ほどご提案がありましたことと関係するのですが、やはり神奈川県はダイヤモンドプリンセス号で最初のコロナの大変な対応で、全国に衝撃が走った、コロナに最初に一番対応を官民でしてきた地域です。そういう意味では、コロナ対策の先進地域であることを明確にしていくべきだと思います。それを具体的にオンラインでどんどん活用していく中で、これだけの成果を上げているということは素晴らしいことではありますが、さらに高みを目指して、いわゆるSEO (Search Engine Optimization) 対策、検索でもっと上位にあがってくるような検索エンジン最適化、あるいはSNSによる発信、これは首藤副知事も「FOCUS」というSNSの社長とコンタクトを取っておられると伺っておりますが、そういった大きな枠組み、そして具体的にWITHコロナ、アフターコロナを見据えた神奈川県がリードして行く、そういうところを明確に打ち出していくべきではなからうかと思えます。

あと2つのうち1つはアスベストのことです。これは健康と環境のことと関係すると思うのですが、直近の問題としまして、アスベストがあらゆる建物の中に使われていて、今まではある種、なあなあにしていたところがあったと思うのですが、この点についても、やはり神奈川県として考えていくべきだと思います。実際にしっかりと検査して、アスベスト対策を行っていないと、いけない段階に入っていると思います。

それから3つ目には、EUは2035年までにハイブリッド車も含めてガソリン自動車をすべて廃止するということを決定したわけです。世界の趨勢の中で、日本がこれからデジタル・トランスフォーメーション (DX) のみならず、GX (グリーン・トランスフォーメーション) をリードしていくというときに、神奈川県はやはりそういった部分でどのような目標を立ててKPIを作っていくのか、電気自動車なのか燃料電池なのか水素自動車なのかなども含めて、やはり考えていかないと、世の中はどんどん進歩していますから、目標の設定やKPIの設定自体もアスベストのことや、世界的に見たときに自動車のことは考えないといけない段階に入っていると思います。

- **高木地域政策課長：** ご意見ありがとうございます。関議員からいただいたご意見でございます。この総合戦略に位置付けたKPIについて、(コロナ禍で実施できなかった事業に関して、そのまま報告書に記載することの是非について) そのままなぞる形でよいのかというご指摘をいただいたかと思えます。また、コロナの対策としまして様々行ってきた県の状況につきまして、報告書の最初のところで、示すべきではないか、あるいはこのコロナの中で特に実施したことをしっかり位置付けるべきではないのかとい

った意見を賜ったかと思えます。

たしかに県が行ったところを記載した部分につきまして、そのところが分かりにくいところが多々あったかと存じます。実情コロナ対応として現在かなりの数の県職員が従事しておりますが、その一方で県民生活に直結するもの、あるいは県民の暮らしを守るべきものにつきましては、計画に基づいて着実にやっていくということも一つございますので、着実にいったものは着実にいったものとして、コロナ対応をしてきたものにつきまして、県が今回作成した報告書の中では少し分かりにくいところもあろうかと思えます。そこにつきましては、現在の資料のところ工夫を加えさせていただきまして、コロナに対応するというところでどのようなことをしてきたのかを見えるような形にさせていただければと考えております。

また、もう一点として今後の方向ですが、2021年度に向けて、まずは計画の見直しをしていくところもあれば、これこれの取組みを推進していく、という形の記載をさせていただいておりますが、これにつきましては改めて事業を行っている担当の部局とも調整をいたしまして、メリハリ等をつけまして、整理を加えていきたいと考えております。

西川委員から本県がコロナ先進県であることをしっかりPRしていくこと。その材料として、オンラインの活用あるいはアフターコロナを見据えた県としてのアピールをしたらどうかとの意見がございました。先ほどの関委員からのご意見と合わせまして、報告書の中に盛り込ませていただければと考えております。

また、アスベスト対策、環境の関係からガソリン車をEU諸国では2035年廃止ということで、所謂、脱炭素に関してどのように神奈川県として進んでいくのかという目標設定をすることが重要であるとのことでありますが、これに関しましては、脱炭素につきまして神奈川県でどのような形で計画を作るのか、改訂をするのかを担当の部局で行っております。それを踏まえまして、今回委員の皆様方にご意見を賜っている総合戦略にどのように反映していくのか。反映時期も含めまして、いましばらくお時間を賜りまして、おそらくガソリン車の廃止というのは産業面としても、この総合戦略で基本目標1の仕事の関係、基本目標4に出てきます持続可能な魅力あるまちづくりに十二分に絡んでくるお話でございます。専門的な意味で脱炭素の計画づくり、改訂を実施しているところでございますので、そこでの議論を踏まえまして、総合戦略につきましても必要な修正なり、改訂なりというのが必要になってくるだろうと考えてございます。ただ、その時期がどのようになるのかと言うのは、もう少し見極めさせていただきまして、必要に応じましてご報告をさせていただければと考えてございますので、これに関しましてはもう少しお時間を頂ければと考えてございます。私からは以上でございます。どうもありがとうございました。

- **タバ委員：** こんにちは。かながわ国際交流財団に勤務しております。最初に篠原室長から新型コロナウイルスの県内の状況についてお話をいただき、状況は非常に大変だな、とよく分かりましたし、KPIがいろいろと達成できない部分があることは、仕方がないかと思えます。逆にその中でも、例えば観光はKPIが2つあるうちの1つは達成していたので、この状況の中で観光の復興はよく進められたのだろうなと思えます。今はコロナがありますのでいろいろな意味で我慢の時期ではありますし、学ぶ時期でもあるし、観光の分野で言えばガイドさんの人材育成など、いろいろな地方のリソースをアピールしていくための準備など、いろいろとできると思えます。そういう講座ができなかったというところもあるので、それも仕方がないところではあるのですが、オンラインでできるところは考えていただいていると思うのですが、この基本目標2・4ではないのですが、基本目標1のところでは、スピーチコンテストの実施ができなかったと記載がありますが、もう少し横断的に、例えば学生にはスピーチコンテストだけではなくて、自分の地元の映像を英語で作って、それを海外に発信するというのも今は個人でできることだと思いますし、神奈川県の特徴としては、たくさんの留学生がいる県でもありますので、コロナの中で今一時的に減っているかもしれませんが、すでに卒業して帰国した留学生のOB会や県のかながわ国際ファンクラブもあります。そうした帰国した方々が神奈川の魅力をオンライン上で伝えるとか、自分の国の中だけでもよいし、そういったことも戦略的に進めると、この(コロナの)時期が生きるかなと思えます。コロナの後にもっと観光客が増えるためにも、リソースがきちんとできていくかなと思えます。

最後になりますが、基本目標4の中では、いろいろと留学生の就職の話なども記載がありますが、私は

ネパール出身で、なかなか国へ帰れないのですが、多くの外国人が日本で内定をもらっても入国できない、という話をよく聞きます。人の移動ができなくなっていて、いつまで続くか分からない中で、日本国内にいるそういった外国人が続けて日本に定住していけるような仕組みをきちんと確保できるようにしていけたらよいのではないかと思います。県としては、県内にいるそういった外国人が安心して神奈川で暮らしていけるような取組みを進めていくとよいと思います。

○ 萩委員： 私、この会議の委員を今回初めて引き受けて、説明を伺って、非常にすばらしい計画が立てられていたのだな、というのが実感としてあります。やはり時間をかけて、みんなでこういうことが必要だということを話し合っただけで作り上げてきた計画ですし、それがコロナ禍でなければ、かなり実現していたのではないかと思います。確かにコロナの影響というものは大変大きいわけですが、全体の方向性としては、実施しようとしていたこの計画でできる限りのことは、前向きに取り組んでいく必要があるのではないかな、と思います。もちろん、アフターコロナで生活が変わる部分もあるかと思いますが、そんなに大きくドラスティックに我々の生活が変えられるかということ、非常に難しいのではないかと思います。この後、3～4年、もしかしたらコロナの影響が続くかもしれませんが、そうであるならば、今すぐできることとできないことをしっかりと選り分けて、今回もイベント関係、ツーリズム関係は本当にできなかったわけですから、そちらは先ほど関係委員からもありましたけれども、それもコロナで仕方がないよね、というところで、そういった部分は報告する必要は私もあまりないのではないかと思います。それよりもオンラインに代えて、こんなふうに工夫して、こんなふうに上手くいったというところを報告しつつ、来年再来年も何かできることがないか、ということを見つけていくことが必要なのではないかと思います。今オリンピックが行われていますが、今年度いろいろと大変な状況の中で行われているオリンピックを上手く活用していくのも1つの方法だと思います。スポーツは最もリアルな世界で、なかなかバーチャルやインターネットで、というわけにはいきませんが、そうした中でも、どのようにしたらできるか、ということを考えていく必要があると思います。特に子どもたちの体力の低下ということも心配ですし、高齢者にとっては1日1日、1年1年が非常に重要ですので、そういう方々がコロナのせいでイベントがなくなってしまうとか、できない、といったことにならないように、何か工夫をしながらできることをやっていくというような、次の展開を期待したいと思います。

○ 富田委員： 皆様、ご無沙汰しております。牛山部会長をはじめ、皆様コロナの関係でご心労が非常に重なっているのではないかと思います。お見舞いを申し上げます。どのような意見を述べてよいか、非常に悩ましく、皆様のご意見を拝聴しながら、気付かされた部分があります。どういった表現をすればよいのか分からなかった部分が皆様のご意見を聴く中で少し教えられたような気がします。相対的なことで大変恐縮ですがお聴きいただければと思います。

2015年度から始めたこの計画づくり、そして2024年度まで計画を作っていく中で、コロナの要因を一時的な特殊要因として、最終的にそういう時期を迎えるのか、そうでないのか、今ご意見もあつたように、アフターコロナ、Withコロナという言葉は大変踊っていますが、誰しもがこうなるだろう、というようなものはなかなか描けない中でのまちづくり（を進めていかなければならない）、こういった部分を非常に危惧しております。

私どもは小さな町でありますので、先ほども少しお話がありましたが、やはり人と人とのつながりが切れてしまっているということに、非常に不安と恐怖感を覚えます。イベントが全てとは言いませんが、いろいろな人が集うことにより、地域コミュニティが成立していたということにつきましては、今回のことで明らかだったということが分かりました。逆に今まで粗略にしていたものを、やはり続けるべきなんだ、という思いがあるわけです。しかし、なかなかそれに参加する機会を作ることは難しいですし、これをこの地方創生で行うべきなのか、県や我々市町村も含めて、そういう人と人とのつながりが集える状況をいつ作っていくのか、といったことが、今日の皆様のご意見を聴いていてもそんなご懸念をされているということが、言葉の端々にあるような気がします。

西川委員の移住定住のプラス要因はもっと発信すべきだ、というご意見について賛成です。ただ1つコロナが特殊要因と考えると、これが俄か移住なのか、本当の定住に向かうのか、という中にこの計画に今まで皆様に積み上げてきた部分のよいところはクローズアップして、行政が取りまとめるご苦労はありますが、1つの報告書というより、もう少しメリハリを付けた発信がよいのではないかと思います。最後にSDGsの関係でも非常に効果があり、浸透したというのは、ある意味、あれだけSDGsという言葉をいろいろなメディアからもインターネット上からもいやが応でも入ってきて、内容は分からなくてもその言葉だけは浸透しているということもあります。そういったことは、行政は苦手かもしれませんが、そういったテクニックを使うということなのかな、という思いもあります。それから先ほど関委員から、コロナの影響が特殊要因ではないかということで、明らかにそういったことも含めてこの報告書の中に言い訳ではなくて、こうだったということに記載した方が、報告書の信用力がもっと高まるのではないかと、というようなご趣旨として理解していますので、そんなことも1つのテクニックという言葉がよいのか分かりませんが、方法として今後この報告書の中に、これはこれとして何か添えるのか、頭書きを入れるのか、そこはお任せで大変恐縮ですが、そんなことを伝えたい気持ちになりました。ありがとうございました。

○ **富山委員：** 私もどんな発言をしてよいのか、考えがまとまらない部分もあるのですが、私がSHONAN TIMEという雑誌をつくっている湘南エリアに関して言うと、コロナの問題はありつつも皆さん元気だな、という印象はすごくあり、例えば、海外を含めて、観光客の方をターゲットに仕事をされてきた方はかなり影響を受けておられて、大変だと思うのですが、一方で、地域の方々に愛されてきたような飲食店は逆にすごく活気があったり、移住の方が増えて、不動産の物件が足りないという話も聞きますし、建築・不動産の方もとても忙しい。そのような変化をどうこの施策に反映させていくのか、というのを、今日のお話の中にいろいろとあったと思うのですが、1つ必要なかなと感じました。

○ **高木地域政策課長：** ご意見ありがとうございました。まず、タパ委員から比較的具体的なお話をいただいたと考えています。外国籍の皆様、留学生の皆様が、今後県へ定住していくという場合の仕組みを作っていくこと、留学生の方で、すでに母国にお帰りになられた方もいらっしゃる。今回のような場合もスピーチコンテストが中止になったこととの比較の中で、では、映像を作って海外に発信してすでに留学をされていたOBやOGの皆様方にもPRしていくといったやり方もあるのではないかといったご意見をいただいたかと思えます。いろんなやり方、工夫の仕方があろうかと思えます。これにつきまして、所管の所属に伝えさせていただきたいと思えます。

次に萩委員、富田委員、富山委員の3名の委員の皆様から包括的なご意見をいただいたかと考えております。1つの整理の仕方として、先ほど関委員からお話ががあったところも踏まえましてお話させていただくと、やはり、今回2020年度にできること、できないことで、できたこと、うまくいったことはうまくいったところでしっかりと記録しておく必要がある。それが次につながる。できなかったものについてどうしたらできるか考えていき、できることをやっていくということについて、現時点での整理をしっかりとしていくところをまずは行ってまいりたいと考えてございます。

もう1つが全体像として、どのような形で、2020年の状況、2021年どように行っていくのかということところが明らかになるように報告書を作っていくべきではなかろうかというご意見をいただいたかと思えます。この報告書というものが、細かな施策についての取組結果を県で記載しまして、基本目標は4つありまして、それぞれについて委員の皆様方からご意見をいただくということとなっております。一番先頭のところには全体像につきまして、委員の皆様方のご発言、ご意見をまとめた形で整理させていただくような構成で、これまでもそういう構成だったのですが、その構成に関しまして全体として2020年度やはりコロナ禍がありました。コロナ禍がどう県の施策、この総合戦略において、影響を与えたのかにつきまして、例えば先ほど、関委員も県の職員がどのような形でこの1年間コロナに従事してきたのかといったお話がありました。その点については記録的部分あるいはそれに近い部分を作りつつ、その一方で社会状況としてこういうこともあったと。例えば、移住に関して言うならば様々な形で移住が進んだところもあるよ

ね、といったことや、あるいは西川委員からもお話があったような、県が実施したわけではないけれど、県としてアピールできることもあります。この総合戦略においてはどのような形で、コロナ禍の影響を受け、対応を図ったのか、全体的な整理をしていく。そのような形でひとまずは受け止めさせていただき、県で皆様方からのご意見をもう一度、検討し直させていただき、報告書の体裁なり、書き方などにつきまして工夫をさせていただければと考えている次第です。どうも、ご議論ありがとうございました。私からは以上でございます。

- **牛山部会長：** 皆様から大変示唆に富むいろいろな視点からご意見をいただきまして、かなり報告書に書き込むべき内容があったかと思えます。これについて多面的にご意見をいただきましたので、最大限、報告書の方に入れ込んでいただくよう、是非事務局をお願いしたいと思います。その一方で、この委員会自体が地方創生の総合戦略の計画、またその事業の進捗状況への評価という側面があります。これはKPIをしっかりと立てて、内閣府へも報告をしなければいけないという計画になっておりますので、確かに、今後も来年も再来年もこのコロナの状況が続いてまったくKPIが意味を成さない、ということになった場合には、これはやはりKPIの見直しも、しなければならないということになるかもしれませんが、とりあえず今年度については、そういった位置づけであるということからKPIを立てて、それがどうなっているのか、という推移はやはり掲載する必要があるのかな、と思います。それから、皆様からいただいた多面的なご意見、もちろんコロナの問題についても、計画している事業に与えた影響であるとか、あるいは見直すべき点などについて、この報告書の中にそれぞれ部分部分で記載していく、ということはあるかと思えます。ただ、一方で、「総合計画」で県の計画全体についても議論を別途しています。そこと、この委員会の違いというところもご理解いただいた上で、地方創生の戦略の報告書となっておりますので、そういった形でとりまとめさせていただきたいと思えます。しかし、先ほど言いましたように、新型コロナの問題、その他多面的にいただいたご意見をできる限り反映していくと。もう一つの基本目標1・3の部会で議論もされているかと思えますので、それらとの表側も合わせながら、部会長の私の方で報告書に記載すべき事項を事務局と調整の上、記載させていただければと思えますが、そんなことでよろしいでしょうか。

- **全委員：** 異議なし

- **牛山部会長：** ありがとうございました。そのような方向で皆様のご意見を報告書の中に盛り込ませていただきたいと思います。ありがとうございます。

議題（2） その他

- **牛山部会長：** 議題の「その他」につきまして、1点私から皆様にお諮りしたいのですが、これは部会の部会長としてもそうですし、この委員会の座長を務めさせていただいている立場から申し上げるのですが、報告書の名称でございます。これについては先ほど富田町長から、単なる結果ではなく、というご指摘もございました。事務局から「参考資料2」のところで、昨年度コロナ禍で、今日も議論の中で出ていましたように、予定していた県事業の実施ができなくて、今までのような4段階の評価、「順調」「概ね順調」「やや遅れ」「遅れ」とこのようにすること自体、今回あまり意味が今回ない、というか難しいので、コロナの影響で取組みが遅れたというものがたくさんありますので、『結果報告書』というタイトルにしたい、というご報告が事務局からありました。しかし、今まで同様に4段階評価をする、ということについては事務局がおっしゃるとおり難しく、（委員からも）異議はないかなと思うのですが、ただ、今たくさんいただいたご意見には、この状況においても結構取組みが進んでいてよいではないか、といったものや、こういうところは見直した方がよいのではないか、というようなことで、部会の評価も、それからこの後の全体の委員会での評価も実質的には行っていくことになろうかと思えます。その意味では、こ

の報告書の客観性を確保できていると思いますので、4段階での評価は行わずとも、この議論という形で評価を行ったものとしても差し支えないのではないかと考えております。先ほど申し上げましたように、内閣府に対してきちんと評価をしている、ということも、これは4段階評価をしなくても、皆様から非常に重要かつ客観的なご意見をいただきましたので、評価という形で『評価報告書』として取りまとめてもよろしいのではないかと考えているところです。事務局いかがでしょうか。

- **高木地域政策課長：** 牛山座長どうもありがとうございます。県としましてはあらかじめご説明したとおりの考え方にございました、今そのような形でご意見を賜りましたので、県事務局にて改めて検討させていただければと存じます。「評価」という言葉をどういう形で報告書の中に、他にも個々の部分にも盛り込むべき箇所がございますので、県の方でいったん整理をさせていただきまして、牛山座長、齊藤副座長にもご相談させていただいた上で、委員の皆様方にもこのような形で最終的に取りまとめたということをお示しさせていただければと考えてございます。そのようなことでよろしく願いいたします。私からは以上です。
- **牛山部会長：** ありがとうございます。私の想いとしては、是非皆様でこれだけ真剣に議論していただいて、客観的な視点を持って評価をしていただいたとっておりますので、是非そのような方向でと思っておりますが、今後の対応については、今事務局からお話いただいて、皆様にお諮りするということですが、ここで何か今の件について、いやいやそのまま『結果報告書』でよいのではないかと、といったご意見があれば出していただければと思っております。よろしゅうございますでしょうか。ではこの件については、改めて委員にお諮りするということで、メールでの審議の形になるかと思っておりますが、その際にはよろしく願いいたします。
その他のことにつきまして、事務局からお願いします。
- **神谷地域政策課副課長：** 本日、皆様からいただきましたご意見を報告書へ反映し、9月の神奈川県議会へ報告いたします。そして、県議会での議論も踏まえまして、全委員にご出席いただく全体会議で改めてご議論いただき、年内に報告書を公表する予定としております。全体会議の開催日につきましては、例年と同じく、11月初旬ごろを予定しており、事務局から別途ご連絡させていただきます。事務局からは以上でございます。
- **牛山部会長：** 総合戦略推進評価部会は、以上をもちまして閉会します。委員の皆様方におかれましては、ご多忙のなかご参加いただき、ご議論をいただきまして、ありがとうございました。